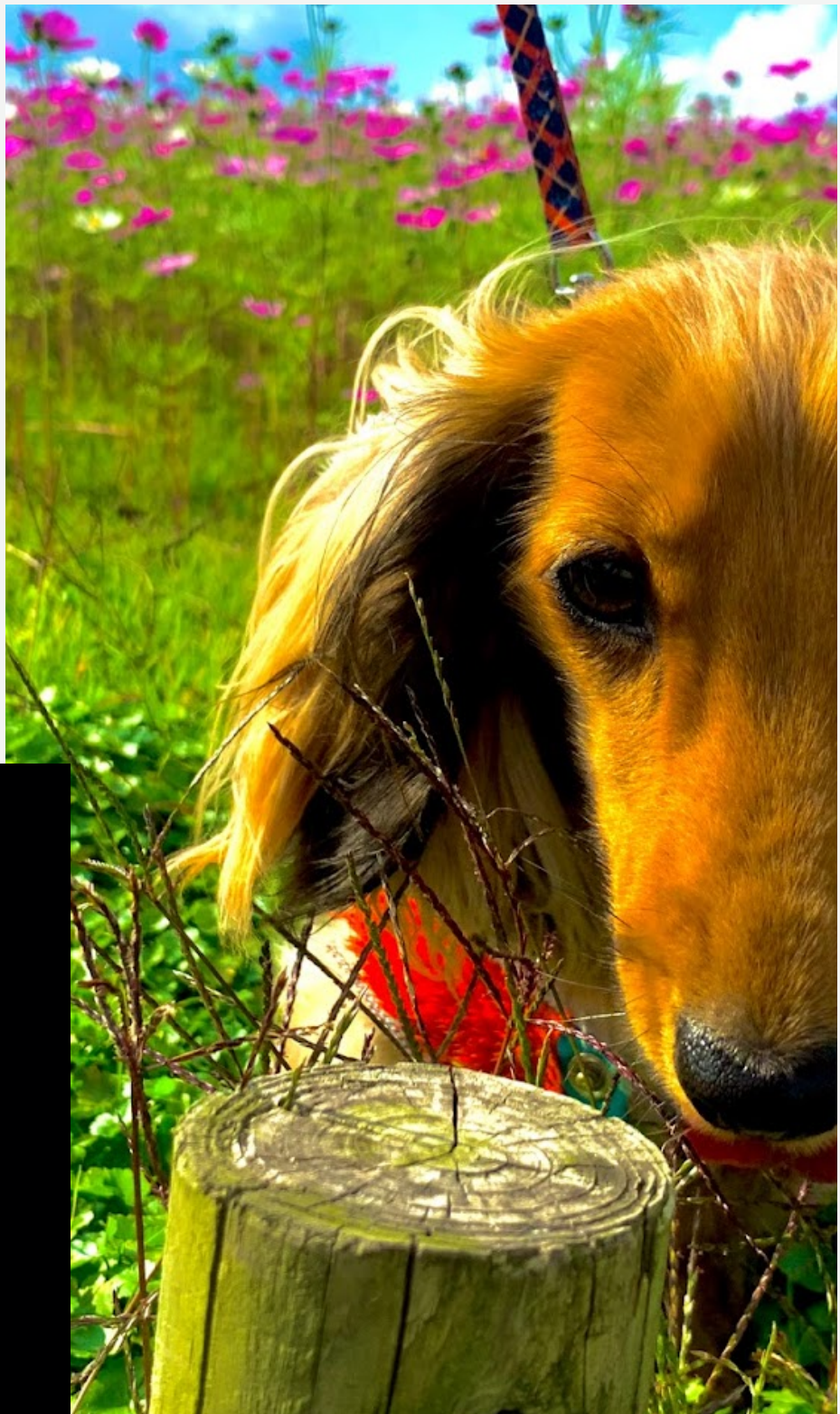
ちゃれきんぐ

2023.10| 第10号

あそび雑誌



後期開講！

後期の楽しみ所

スタッフ紹介

特集
子どもの理解

後期の楽しみ所

3

ボルダリングホールドルート変更(別ページ有)

ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞのルートが変更されました。体の小さなこども達は色縛りで、体の大きい子はオリジナルルートで完登目指せ！

オリジナルスウェットの販売

冬期のレッスンにご利用いただくオリジナルスウェットの販売がまもなく始まります。受注生産のため、全ての注文が終わってからの発注です。注文は期限内にお願いします

4

スケート教室

今年も島根県にある湖遊館に行ってスケートを楽しみます
初めてでも大丈夫！是非ご参加ください！(詳細は後日ご案内)

4

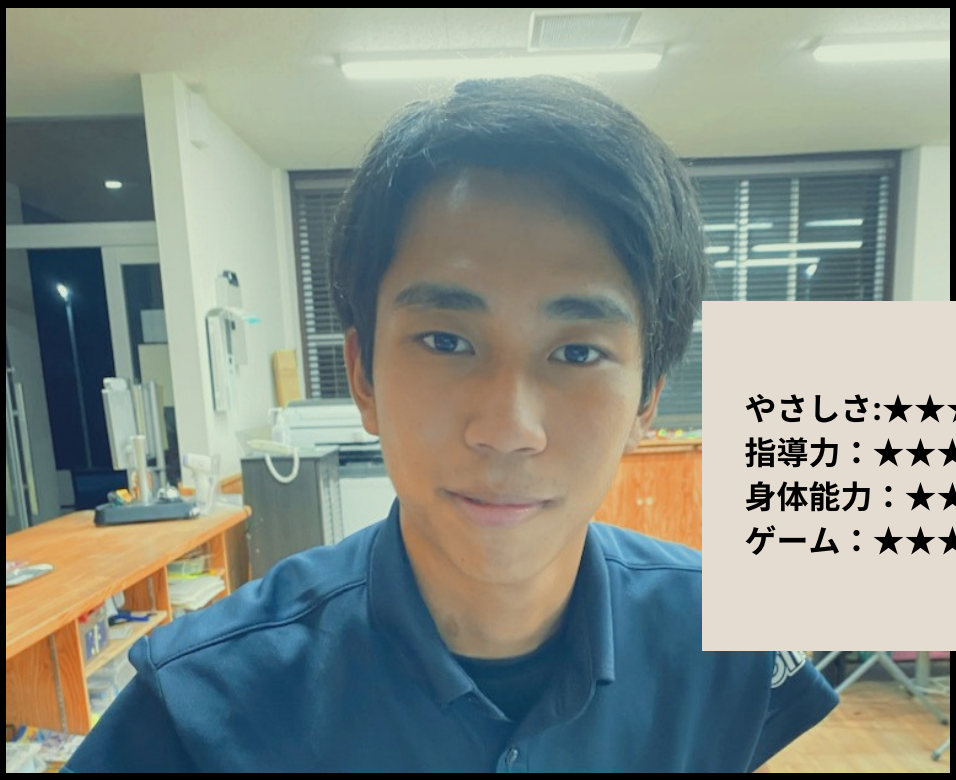
スキー・スノボ教室(別ページ有)

雪よ降ってくれ！予定では年明けに実施。毎年降雪の程度によりフィールドを変更します。(詳細は後日ご案内)

2

スタッフ紹介(別ページ有)

4月からﾒｲﾝでﾚｯｽﾝを行ってきた講師が6ヶ月の研修期間を終え思いっきり力を発揮していきます。まだまだ未熟ですがよろしくお願いします。



やさしさ:★★★★
指導力：★★★
身体能力：★★★★★
ゲーム：★★★★★

souta nakayama (仲山颯汰)

ちゃれきんぐ期待のホープです。短期間であらゆることを貪欲にマスターし、こども達のためにできることを増やし続けました。
勉強熱心で、自分の仕事の振り返りを行い、より良いレッスンにするためにむさぼるように勉強しています。
学生時代から専門で行っていたバレーボールは現在も現役でプレーし、9人制やビーチバレーでは、持ち前の身体能力を生かして鳥取県を代表できる選手です。スノーボードの腕前もピカイチで、ゲレンデでのニット帽、ゴーグル姿は本当にイケてます。現在は放課後児童クラブ「ちゃれんじ児童クラブ」の所属ですが、そこでは「きんに君」と呼ばれています。不発に終わったチリチリパーマにおさらばし、現在は好青年風を目指しています。
ちゃれきんぐが信頼を寄せる若きスタッフをどうぞよろしくお願いします。

bouldering

ここにﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞｴﾘｱを設置したのには理由がある。それは、ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞという種目の持つ特異性だけではない。
ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞというｽﾎﾟｰﾂを通して子どもの発育発達に合わせた体の動かし方を経験させることができるからだ。
掴む、握る、押す、引っ張る、踏む、蹴る、バランスをとる等これらのことだけでも十分価値ある機会だが、自分と物の距離感、体を伸ばすだけでは届かない所に体をタイミング良くひねることで届くという体の使い方など。
多くのトップアスリートが専門種目以外に取り入れる種目として、ﾎﾞﾙﾀﾞﾘﾝｸﾞが選ばれているのには、そういった理由があるようである。

TRAMBOUL bouldering area

NEW ARRIVAL
lesson sweat

今年も販売をすることが決定しました。

詳細は後日マチコミ等にてご案内いたします

スキー派？それともスノーボード派？

ちゃれきんぐ恒例のウインタースポーツ教室。
今年も、スケート教室、スキー・スノーボード教室を開講します。(ダルマン的には雪山トレッキングもしたいのですがやはりリスクが高すぎて断念)鳥取県内にスケートリンクがないので、今年も島根県の湖遊館を予定しています。鳥取市内にあったスケートリンクに行ったことがある保護者の方もそろそろ少なくなってきたのではないでしょうか？
スキー・スノーボード教室は積雪の状況とKIDSウェイのあるゲレンデをフィールドにしようと考えています。

ウィンタースポーツを楽しむ人口もだんだん減ってきているように感じますが、高校ではスキー実習を行っているところもまだまだあります。自転車の乗り方や鉛筆の持ち方のように、一度子どもの時に経験しておくと、成長してからの上達も早くなります。もちろん、ケガのリスクがあるスポーツです。そこは、それぞれの子どもの技量に合わせて難易度を変えて指導していきます。
また、スノーボードの到来により雪山スポーツの人気が二分されるようになりました。
さあ、今年の雪山教室はどちらを選びますか？
参加募集は改めて告知します、人数に限りがありますので募集が始まったらお急ぎください。

特集
こどもの理解

間屋口貴仁

それぞれの文化を尊重する

大学時代の活動期間も含めるともう30年以上も子ども達と関わることをやっている。自分の知識と経験もこの年数分だけ増えたが、その時その時に感じていたことは違うような気がする。しかし、その中にあってもこども達一人ひとりの「文化」を大切にすることは軸として今も変わらない。

現在はビジネスの世界でも一般的につかわれるようになってきた言葉に「アセスメント」というものがある。私はこのアセスメントこそ子どもの理解に重要なことの一つだと考えている。無論、こどものアセスメントを行う際に専門的な事柄(心理検査などの各種バッテリー)を使う必要があることも理解できているが、私は、こども達のそのままの状態を観察し、こども達の行動や言葉、気持ちを理解するようにしている。そして、その子が持っているルールや興味、趣向や苦手さなども推測し、聞き、理解する。もちろん、その子が持っている言葉や経験してきたことも理解する。

そうして得ることができた情報を積み重ね、立体的にこども達をとらえることが子どもの理解だと考えている。そして、この情報は細かく多くあればあるほどよく、さらに、多くの人の目でとらえられた情報も含めることでより、立体的になると思う。

そうやって、こども達をアセスメントしていると、一人ひとりの子どもには「文化」があるように感じられてきた。好きな味や、行ったことのあるところも含め育ってきた環境が経験をつくり、それぞれの子どもの文化を創造しているように感じる。

そして、それは「こどもはこどもなりに」考えているといつも思う。

「多様性」という言葉をよく耳にするようになってきたが、そもそも、私の考えでは子どもたちそれぞれに文化が存在しているので、くくりなく無数に文化が存在している。まさに「多様性」だと感じてしまう。であるならば、自分と同じ文化であると決めつけず、まずはこどもの文化を理解することから始めることをお勧めする。そして子どもとの仲がうまくいかない時は文化交流を手伝ってもらう存在や自分の見えていない子どもの姿を教えてくれる存在に頼ることも大切だと思う。

そして、この「人に頼る」ということにより、自分では見えていなかった、気付かなかった子どもの文化に触れることになり、さらにこどもを理解することにつながると思う。

子どもを理解するということは、その子の文化を理解し、尊重するということなのかもしれない。